

研 究 分 野	資源生態	部 名	漁場環境部
研 究 課 題 名	浮魚類の資源評価調査にかかわる調査研究（用船）		
予 算 区 分	委託（（独）水産総合研究センター 中央水産研究所）		
試験研究実施年度・研究期間	H17～H18		
担 当	松尾 みどり		
協 力 ・ 分 担 関 係	（独）水産総合研究センター中央水産研究所		

<目的>

本研究は、（独）水産総合研究センター中央水産研究所の委託を受け、試験船開運丸で実施されたものである。

マイワシ、カタクチイワシ、サバ属魚類、マアジ、サンマ等浮魚類は、本県漁業の主要な対象魚種である。黒潮続流域及び黒潮・親潮移行域において、これら浮魚類の稚仔魚の生残過程解明に向けて、被食による死亡過程に関する解析のための調査を実施した。流し網により潜在的捕食者である中型～大型魚類を採集し、胃内容サンプルが収集された。

同時期に中央水産研究所試験船蒼鷹丸による浮魚調査が実施されており、同じ海域で捕食者と被食者（稚仔魚）の採集が行われた。捕食者胃内容物と周辺で採集された稚仔魚の特性を比較すること等により、浮魚類稚仔魚の被食メカニズム解明の材料とされた。

本調査は2年目となるが、今年度の調査では時空間的な変動を明らかにするために大型捕食者採集が連続的に行われ、捕食者の消化速度を推定する材料とされた。

また、本調査ではカタクチイワシの産卵親魚も採集され、産卵生態の海域差の解明の材料とされた。

<試験研究方法>

1. 調査海域：東経 155 度以西の太平洋
2. 調査期間：平成 18 年 5 月 23 日～6 月 19 日
3. 調査項目：
 - ①常磐沖での開運丸単独調査
 - ・流し網によるカタクチイワシの産卵親魚採集
目合 19mm～29mm の流し網を、日没後に水温の異なる海域で連続的に 2 回投網した。
 - ・NORPAC ネットによる動植物プランクトンの採集
目合 335 μ m の NORPAC ネットにより、水深 150m からの鉛直曳網を行った。
 - ・海洋観測
CTD により 1000m 深までの水温・塩分測定を行い、バケツ採水により表面水温を測定した。

②蒼鷹丸との連携調査

- ・流し網によるカツオ等大型捕食者採集

目合 19mm～157mm の大目流し網を日没直後に投網し、1～4 時間設網した。

- ・連続流し網によるカツオ等大型捕食者採集

上記流し網調査でカツオ等が採集され、蒼鷹丸にて浮魚類稚仔魚が採集され、かつ、カツオ等の胃内容物に稚仔魚が含まれていた海域において、流し網調査を 4～5 回連続的に実施した。

- ・NORPAC ネットによる動植物プランクトンの採集（単独調査と同様）

- ・NEUSTON ネット浮魚類稚仔魚採集

目合 450 μ m の改良型 NEUSTON ネットによって浮魚類稚仔魚採集を行った。

- ・海洋観測（単独調査と同様）

③イカ釣り試験

イカ釣り機による操業試験を実施し、イカ類の分布を調査した。

<結果の概要・要約>

調査状況および調査結果については、調査員より無線局及び電子メールを通じて随時連絡を受けた。調査結果については、漁獲情報としてウオダス上にて漁業者へ提供した。

<今後の問題点>

平成 19 年度は委託予算の縮小等を受けて、実施が困難な見通しである。平成 20 年度以降の再開に向けて現在調整中であるが、本研究の解析によりもたらされるであろう知見は本県漁業にとっても重要なものである。また、調査結果は漁業者へ提供されており、計画的かつ効率的な経営に資するためにも、本事業の再開が望まれる。

<次年度の具体的計画>

実施の見通しはたっていない。

<結果の発表・活用状況等>

速報掲載誌：ウオダス No.1487～No.1491

その他に、中央水産研究所で研究結果を取りまとめる予定。